

住まいの飾り職人“アトムリビンテック株式会社”の広報誌 [アトムニュース]

# ATOM NEWS

2019 AUTUMN

# 205



つかってみると  
なんだかうれしい  
ここちいい



KANAGU

[kanagu-store.com](http://kanagu-store.com)

- 3 アテナの道具箱 挽物木地師 佐竹 巧成さん
- 6 石の神さま仏さま 観音様が降りてくる日
- 7 住まいの中の機構としくみ てこ(梃子)の原理
- 9 アトム新商品INFORMATION 次世代を切り拓く注目の新商品  
半自動引戸金具FC-101-40・FC-101-40S
- 10 Vegetable Atelier トウモロコシ
- 11 古今東西たてものがたり 埼玉県入間市 旧石川組製糸西洋館
- 15 What is ATOM? アトムリビンテックって、どんな会社? 10
- 17 ごとうゆきの  
トーキョー下町探検 下谷・入谷編
- 18 オフタイムの過ごし方

今号の表紙

空飛ぶATOM



ニューヨーク〜パリ間の無着陸横断飛行を遂げた冒険時代は今から100年ほど前の話。リンドバーグの名は有名である。翻って日本の冒険飛行時代には、大正14年に東京・代々木練兵場を初風と東風の2機がローマに向かって飛び立った。日本の航空元年は、明治43年に日野大尉が「日野式1号推進式高翼単葉機」で、新宿の戸山ヶ原からフライトを試みているが、搭載した発動機が自動車用8馬力と非力だったため、馬力不足で離陸が叶わなかった。ATOMの丁番で夢の空を飛んでみてはいかが？



瀬谷 昌男 [Masao Seya]

東京都渋谷区原宿生まれ。浮世絵風のユニークで癒やし系の作品を生み出しているイラストレーター

## 読者プレゼント Present



### ● 塗分け汁椀「曙」または荒筋汁椀「根来」

今号の「アテナの道具箱」でご紹介した<sup>ひきものまじし</sup>挽物木地師、佐竹巧成さんが挽いた汁椀です。

山中漆器は、<sup>ろくろ</sup>轆轤を使った挽物技術が特色で、表面にさまざまな縞模様をつける「<sup>かしよく</sup>加飾挽き」が大きな特徴です。その手法は1本ずつ等幅にカンナで溝を挽いた干筋、荒々しくランダムに筋を入れた荒筋をはじめ、籠目筋、糸目筋、子持筋など数十種に及びます。写真右の塗分け汁椀は、干筋に挽いた木地に朱漆と黒漆を重ね塗りし、研ぎあげることによって洗朱の色が顔を出す「曙塗り」仕上げ。写真左の荒筋汁椀は、下塗りに黒漆、その上に朱漆を塗る「根来塗り」。紀州・根来寺の漆器がその名の由来で、独特の風合いが茶人たちに好まれ珍重されました。どちらも使いつづけるうちに、下地の色が濃くなって艶が増していきます。

〔サイズ〕高さ約63mm 径約120mm 〔材質〕樺 〔販売価格〕5,000円＋消費税

巻末のハガキ・FAXまたはホームページのアンケートにお答えいただいた方のなかから、抽選で1名を4名様にプレゼントいたします。

締め切り 2019年10月31日(木)

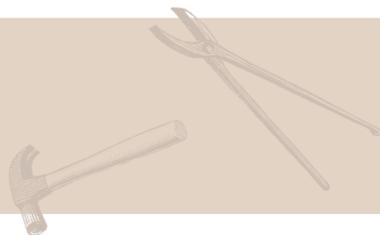
● 当選者の発表はプレゼントの発送をもってかえさせていただきます ● 色・形は選ばせません



## アテナの道具箱

ATHENA'S TOOL BOX

vol.XI



木工用の轆轤が音を立てて回る。荒挽きした木にカンナをあてると、木屑が生き物のように舞った。木の塊は見る間に形を変え、椀に生まれ変わっていく。

「木の材質によってカンナのあてかた、力の入れかたが違う。同じ櫛でも、それぞれクセや堅さ、ねばりも違ってくる」

挽物木地師とは、轆轤を使って漆器の木地となる椀や鉢を挽く仕事。カンナを握る右の掌と左の親指の付け根に、職人の証でもあるタコができていた。

石川県には三大漆器産地がある。各地の特徴から「木地の山中」「塗りの輪島」「蒔絵の金沢」と称される。山中は轆轤で挽く職人の分野で、質・量ともに国内トップクラスだ。

だが「家業の木地師を継ぐつもりはなかった」。大学では漆・木工コース専攻だったが、卒業後は飛騨の木製家具メーカーに就職。商品の設計を担当した。図面を描く仕事は面白かったが、ある日ふと「自分でモノづくりをするほうがもっと楽しい」と気づいた。家業を継ぐのが自分の進むべき道ではないか、と。父の姿を見て、知らず知らず影響を受けていた。回り道をしたようだが「自分も職人として生きていきたい」という新たな覚悟が生まれた。



## 伝統を挽く

挽物木地師

### 佐竹 巧成

YOSHINARI SATAKE

1970年石川県江沼郡山中町（現・加賀市山中温泉）生まれ。金沢美術工芸大学・大学院美術工芸研究科修了。家具製造メーカー「飛騨産業（株）」を経て、家業である山中漆器の挽物木地師として父・一夫氏に師事。職人として活動しながら、作家としても「第17回伝統工芸木竹展」で木竹参与賞受賞など受賞多数。日本工芸会正会員、伝統工芸士（山中漆器・木地部門）。



挽物木地師としては、他の仲間よりも遅い二十九歳からのスタート。最初は「挽いた椀が不良品で戻ってくるんじゃないか、と不安だらけだった」。本当に飯が食っていけないのか、と焦燥感にさいなまれた。

体も心も慣れない生活。それに順応できず、ストレスで体調をくずし、カンナを握りしめていた右手に炎症がおきた。「薬指と小指の付け根が腫れて痛み、朝起きたら指が開かなくなっていた」

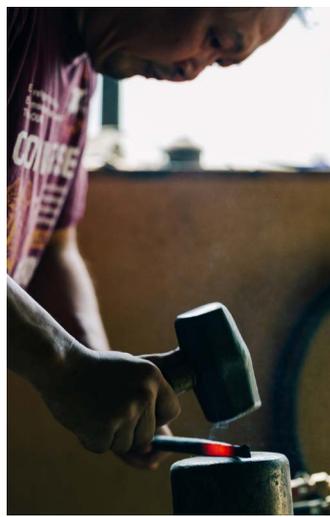
職業病ともいえる「ばね指」の症状だ。様子をみても改善の兆しはなく、やむなく切開手術を受けた。二度に及ぶ手術で、いまでもメスの傷跡が残っている。

休業中「形を見切る力をつけろ」と言われた。カンナを持つ手先だけでなく、体をどう動かすかで椀の内側の曲線を表現すること。

「動きを体にしみこませ、意識を研ぎすませて挽く。それが形を見切ることではないか」

挽きすぎではないか不安や怖れはあるが、勇気を持ってギリギリまでカンナをあてる。

「つねに攻める気持ちがあれば、早くきれいに挽くことはできない」



### — 刃物の鍛造

木地を挽く専用のカンナは、すべて職人自身の手づくり。みずからの仕事にふさわしい刃物を鍛造する。

バーナーでハイスピード鋼を熱し、金槌で叩いて成形し、刃先を研ぎあげる。

椀の外側を挽くウラビキ。内側を削り取るエグリ。木地を平らにならすシヤカなど。「使う人の体型や挽くときのクセによっても刃先の形は微妙に変わる」。

山中の漆器は表面にさまざまな縞模様をつける「加飾挽き<sup>かじやく</sup>」も大きな特徴だ。

「刃をどれくらい薄くするか、角度をどれくらいにするか、使いやすい形を探っていくしかない」

木目の模様を際立たせる「拭漆仕上げ<sup>ふき</sup>」では、カンナの切れ味の違いがはつきり現れる。木肌を美しく挽く技術とセンスが求められるのだ。「いいカンナがつくれなかったら、いい木地は挽けない。だから自分がどれだけの腕を持っているか、道具が教えてくれる」

道具は職人の分身であり、その技術の象徴なのだ。

### — 伝統職人の道

職人仕事のかたわら、一点物の作品の制作、発表もつづけている。作品に関し

ては仕上げの漆工程まで、すべて自分で

「量産品と違って、コンマ以下、ティーツシュー一枚分を削るか削らないかを判断する世界」。その経験が職人仕事にフィードバックされ、活かされる。

「これでいいと思ったことは一度もない。つねに悩み、工夫し、試行錯誤している」

家業を継いで三代目に。祖父や父のような職人という生き方に憧れ、同じ道を選んだ。

「気負いを持たず、職人として人生を全う<sup>まっとう</sup>できれば、いちばんの幸せだと思う」

生涯一職人。それ以上でも、それ以下でもなく。それが伝統を受け継ぐ挽物木地師としての心意気であり、自信と誇りである。

きょうも作業場には木地を挽く音が響いている。



広島県廿日市市宮島町弥山 千手観音

## 観音様が降りてくる日

お寺や神社の境内の片隅や道すがらにひっそりと立つ、石の神さま・仏さま。時によっては、立派なお堂の中に祀られた国宝の仏像よりも力強く、何かを語りかけてくれます。



秋になると、空気がだんだんきれいになって

天からのメッセージが、届きやすくなる気がする。

だから、こんな晴れた日は、

できるだけ遠くが見渡せるような山に登ろう。

観音様もどこかから降りてきて、

わたしたちの願いを聞き届けてくれそう。

### 千手観音 [広島県廿日市市宮島町弥山]

厳島神社で有名な安芸の宮島。真ん中には標高535mの弥山みせんという山が聳え、途中までロープウェイで行くこともできます。中腹から山頂にかけては、大聖院というお寺の数々のお堂が点在し、道中にこのような石仏もあります。摩耗がひどく特定はできませんが、体の周囲に手の痕跡が何本か見えるので、おそらく千手観音とされます。

● 宮島ロープウェイ獅子岩駅下車



### 文・写真 吉田さらさ

寺と神社の旅研究家。日本各地に取材し、石の神様、仏様の像の写真撮って「お言葉」を考えるのがライフワーク。『明日がちょっと幸せになる お地藏さまのことば』(ディスカヴァー・トゥエンティワン)、『石仏・石の神を旅する』、『長崎の教会』(いずれもJTBパブリッシング)など、著書多数

さまざまな現場でさりげなく使われているモノたちのしくみを知る



# てこ(槌子)の原理

日々私たちが、何気なく利用している、てこの原理。あまりにも身近なしくみなのですが、あらためて今回は、てこの原理をひもといてみたいと思います。てこの原理は大きく3つに分けて説明することができます。

てこの原理は、力点に力を加え、支点を中心とした回転運動により、作用点に大きな力を加えることができる原理です。

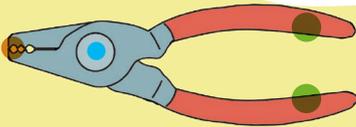
## 第1種てこの原理

第1種てこの原理は、力点と作用点を結んだ間に支点を置いたかたち。

## 第2種てこの原理

第2種てこの原理は、支点と力点を結んだ間に作用点があるかたち。

ペンチ



プルタブ



作用点

力点

支点



棒を使用して石を動かす

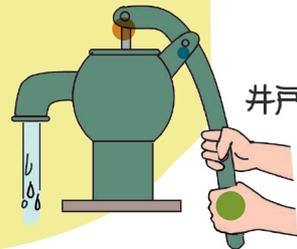


洋ばさみ

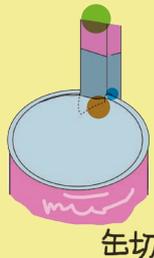
クギ抜き



井戸の手押しポンプ



缶切り



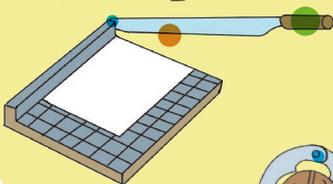
私に支点を与えよ。  
そうすれば、地球でさえ  
動かしてみせよう!



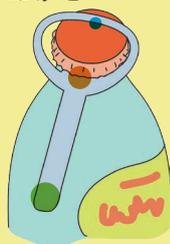
てこの原理の発見者  
アルキメデス

古代ギリシャ・ローマ時代の天才アルキメデスが話した例え話。実際に地球を動かせるかどうかは別にして彼にそう言わしめた力それが、てこの原理

カッター台



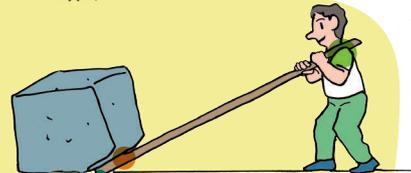
栓抜き



作用点

支点

力点

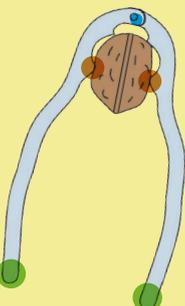


手漕ぎボート

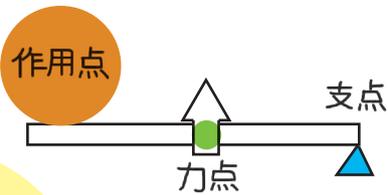


石の下に棒を差し込み動かす

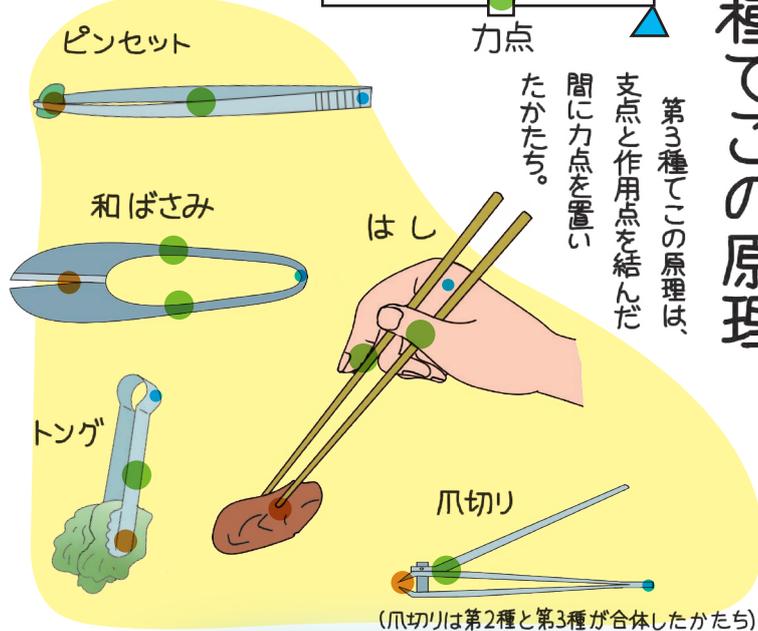
くるみ割り器



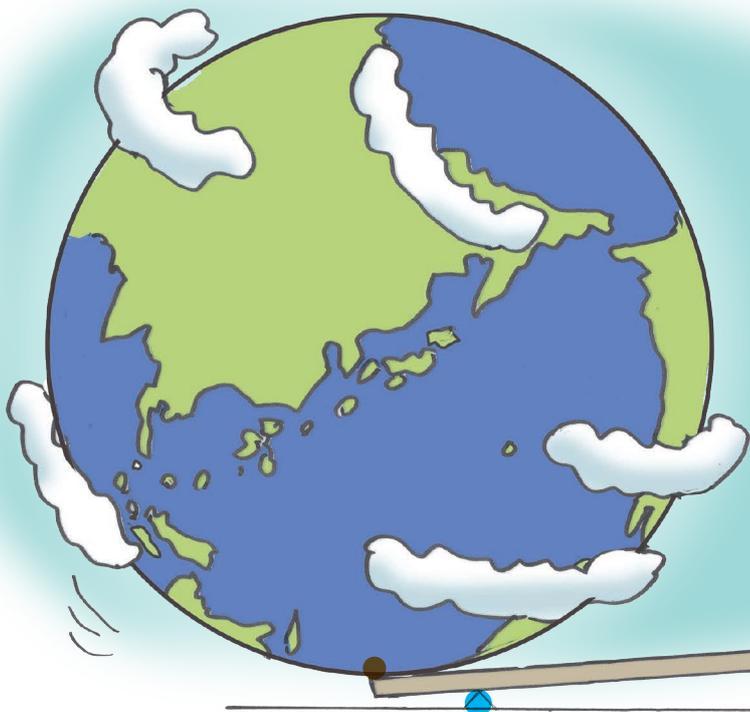
# 第3種てこの原理



第3種てこの原理は、  
支点と作用点を結んだ  
間に力点を置いて  
たかたち。



(爪切りは第2種と第3種が合体したかたち)



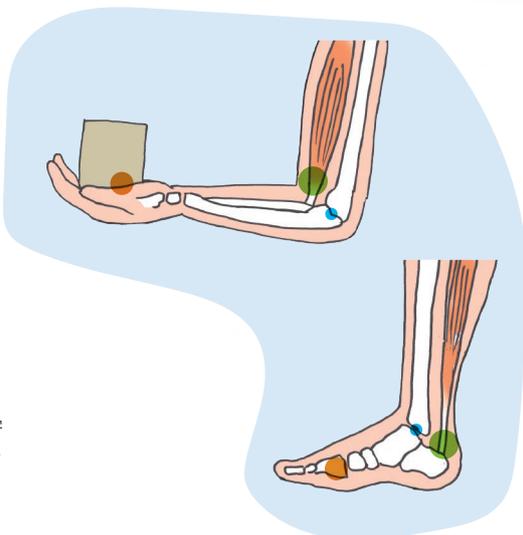
## 重力とてこの関係

もし無重力であれば重い石でも簡単に移動させることができ、この原理は不必要となります。つまり、種類のてこの原理は、多くの場合、重いものを持ち上げるなど、重力に影響を受けたもの(質量)への作用です。ただし無重力でも、金属の反発力や素材力を利用したものやロボットのしくみなど、このてこの原理を使うことがあります。

## 人体で考える

### てこの原理

人間の体の中でも、てこの原理が作用しています。体を動かすために、筋肉を使い力点にして腕や足の関節を支点にしているのです。



## 4 気になる木のはなし



### 水楢 (通称ナラ・オーク)



楢は、身近なものとしてワインやウイスキーの樽材としてご存じの方も多いと思いますが、世界各地に自生し大きく育つことからキング・オブ・フォレスト(森の王様)とも呼ばれています。古くは縄文時代から、その実は食料に、枝葉は火力燃料として、幹は各造作物として利用されてきました。また、北海道産はとくに良質で、近代ではヨーロッパに輸出されベルサイユ宮殿にも使われたといわれています。楢の実(どんぐり)は、地面にころがり、動物たちに食されることで移動しながら、離れた場所で成長し子孫を繁栄させてきました。自然界の植物と動物たちとは常に共存共生していることを忘れてたくありません。

監修 石塚典男(木香家)



塩浦 信太郎

信太工房主宰/カラクリ作家。博物館や科学館へのカラクリの貸し出し、ホテルなどからのオーダーによる作品制作、ほかにデパート各店での展示販売などを行っている

次世代を切り拓く注目の新商品

# 半自動引戸金具FC-101-40・FC-101-40S

HR-SYSTEM [ソフトクローズ併用]

去る4月に開催された「2019 春の新作発表会」でご紹介した新商品が、ついに10月発売が決定。引戸金物の未来を先取りした新たな「次世代商品」として注目されています。今回の新商品は「クローザーユニット」により自動で閉まる半自動引戸金具で「フリーストップ機能なし/FC-101-40」と「フリーストップ機能あり/FC-101-40S」の2種類。高齢者福祉施設や商業施設、公共施設、病院など、非住宅系のアイテムの需要が高まるなか、「新分野を開拓する」という位置付けの商品として、大いに期待されています。



● フリーストップ機能あり [FC-101-40S]



1 戸を開ける操作は、手動となります。



2 戸を開けて、手を離れた位置で戸が止まります。



3 戸を閉める方向に動かすと自動で戸が閉まり、閉まる直前にソフトクローズ機能が作動します。

## POINT 1

上部レールは**傾斜式ではなく、水平仕様**で自閉ができるタイプ。これまでは自閉のための造作材が必要でコストもかかっていましたが、新商品は通常の上吊式引戸用の枠に**インセット施工が可能**。HRシステムでスムーズな自閉ができるようになりました。

## POINT 2

部材を追加することなく、同じ加工で「**フリーストップ機能なし**」「**フリーストップ機能あり**」が設置できます。また「フリーストップ機能あり」では、車椅子での出入りなど、ユーザーのニーズによって戸を外さずに「フリーストップ機能」のオン・オフの切り替えも可能です。

## POINT 3

従来商品よりも、**閉まるスピードが優しく緩やかな**のが大きな特徴。障害のある方や、年配の方でも安心して利用できます。しかも、スピードの調節がマイナスドライバー1本で可能。ユーザー志向の開発コンセプトに沿った商品です。

● こちらの商品はアトムCSタワーおよび、アトム住まいの金物ギャラリー大阪事業所にてご覧いただけます

# まずはそのままかぶりついて！ 夏のキレドのトウモロコシ

トウモロコシといえば、火を通す場合がほとんどですが、キレドのトウモロコシは生がいちばんおいしい。サラダにするのもいいけれど、まずはそのまま、かぶりついてみてください。どこかフルーツを思わせる、まるやかな甘みに驚くはず。トウモロコシが成熟する前のヤングコーンもおすすめです。じつは、皮の部分にうまみが凝縮。皮ごと縦に切って、焦げ目がつくまで蒸し焼きに。大人のトウモロコシとはまた違うおいしさを楽しめます。

栽培には少し手のかかるトウモロコシ。それでも夏のキレドには欠かすことのできない野菜です。



クリタカシ | 野菜農家「キレド」代表。サラリーマン時代に出会った「梨のような大根」に感銘を受け、農業の道に。現在は千葉県四街道市にて、年間150種類以上の野菜を栽培している。「野菜の一生をみる」「レストランでしか食べられないような野菜を、食卓にも」を基本理念として活動中。同県千葉市には、とれたて野菜を味わうことのできる「キレドベジタブルアトリエ」も。

キレドベジタブルアトリエ  
千葉県千葉市若葉区小倉台5-13-4-1F  
[www.kiredo.com](http://www.kiredo.com)



埼玉県南部に位置する入間市。狭山茶の名産地として知られ、明治から昭和初期にかけては製糸業で栄えた。「旧石川組製糸西洋館」は、かつての繁栄ぶりを象徴する代表的な歴史的建造物。数々のテレビドラマや映画のロケ地としても使用され、平成十三（二〇〇二）年に、国の登録有形文化財に登録された。

### 国内大手の製糸会社

建物には、その扉を開けてみなければ分からない物語が秘められている。

ここ「旧石川組製糸西洋館」もそのひとつ。物語は石川組製糸の創業者・石川幾太郎いくたろうからはじまる。幾太郎は安政二（一八五五）年の生まれ。ペリーの浦賀来航や日米和親条約の締結につづき、開国と攘夷論争が渦巻く動乱の時代である。

幾太郎は農家の五男三女の長男として、幼い頃から父母を手伝い農業に精をだした。東京への積み荷が集中する舟運の中心地であった現在の川越市あたりまで、馬を引いて荷を運び家計を扶けたという。彼が製糸業を興したのは、明治二十六（一八九三）年。当初はわずか二十金の座繰り

製糸でスタート。その翌年には、いち早く蒸気力を利用した機械製糸に転換。日

清・日露戦争の戦時景気の追風を受けて順調に経営規模を拡大していった。

旧入間郡内だけでも五工場を設置したほか、他県にも工場を建設。さらに米国ニューヨークの五番街にも支店を置き、ネクタイやストッキング用の高級生糸を輸出した。大正期には国内大手の製糸会社として全盛期を迎えたのである。

### 贅が尽くされた迎賓館

好調の波に乗り、大正十（一九二一）年、アメリカの貿易商を招くための迎賓館として「旧石川組製糸西洋館」が上棟された。外国からの客に「豊岡（現・入間市）

## 埼玉県入間市・旧石川組製糸西洋館

取材・文 倉田ひさし 撮影 大垣善昭



現在の石川組製糸西洋館。平成15（2003）年に石川家本家から入間市に寄贈された [右]

昭和13（1938）年9月に西洋館前で撮影された写真。石川幾太郎の死後、息子の民三も跡を追うように逝去。その葬儀のときの模様を写したものの [下]



# 迎賓館として落成した 洋風木造建築

1階食堂。直線による幾何学模様が特徴で、まるで大正モダンの世界に紛れこんだかのようなインテリア。シンプルなデザインのカーテンレール、食卓、調度品など細部にまで調和がとれている



1階の応接室。「折上げ小組格天井」が、和風かつ重厚な雰囲気醸しだしている

を見くびられてはたまらない。超一流の館をつくってお迎えしよう」と幾太郎は決意したので。

木造二階建ての本館は、外壁が化粧煉瓦貼りで全体を洋風にデザイン。正面中央に入母屋屋根の玄関ポーチを設けて和風の彩りを添えた。正面右にあるベイウインドウ（台形に張り出した出窓）が印象的だ。

建物内部は宮大工によるさまざまな技巧が凝らされ、繊細な装飾が施されている。中でも特徴的なのが一階の応接室や食堂だ。応接室の壁は腰板の上部に絹織物の縁取りを持つ壁紙が張られ、天井は

折上げ小組格天井による和のテイスト。

食堂は嵌板と漆喰によるパネル天井で、直線的な幾何学模様が美しく、床は菱形紋を連ねた寄木造り。しかも部屋ごとに天井や床の模様、照明器具の趣向を変え、贅が尽くされている。

### 繁栄のシンボリック存在

二階へとつづく階段には、幾太郎の想いがこもっている。階段の柱に製糸業を象徴する「糸房」のモチーフが彫刻されているのだ。

二階には、ホールを囲んで東西ふたつ

の和室と大広間、貴賓室（非公認）がある。西和室は純和風の書院造り。大広間に入って左手の窓には和風のステンドグラス。これは東洋画の画題に用いられる「四君子（蘭、梅、竹、菊）」をモチーフとしたもの。国内に現存する「四君子」のステンドグラスは、わずか三例といわれる貴重なものだ。

建築当時は、建物の周りに回遊式の庭園が広がっていた。築庭の参考に幾太郎はわざわざ京都まで足を運び、金閣寺や南禅寺を見学した。それを範として、めがね橋が架かる大きな池を中心に茶室や東屋が配されたのだ。

迎賓館としての館は、石川組製糸が誇る繁栄のシンボリック存在であった。だが、その運命を一変させる暗い影が、ある日突然、襲いかかる。関東大震災である。

### 波瀾と激動の歴史物語

幸い西洋館は被災をまぬがれた。が、横浜港の倉庫が火災に遭い、船積み直前の生糸一千梱が焼失（生糸一梱は三十三・七五キログラム）。その後、会社は生糸相場の暴落や資金繰りの逼迫に苦しみ、しだいに業績を下降させていく。

さらに、追い打ちをかける出来事が起こる。事業経営をリードし「軍師」とも

### アトムの視点



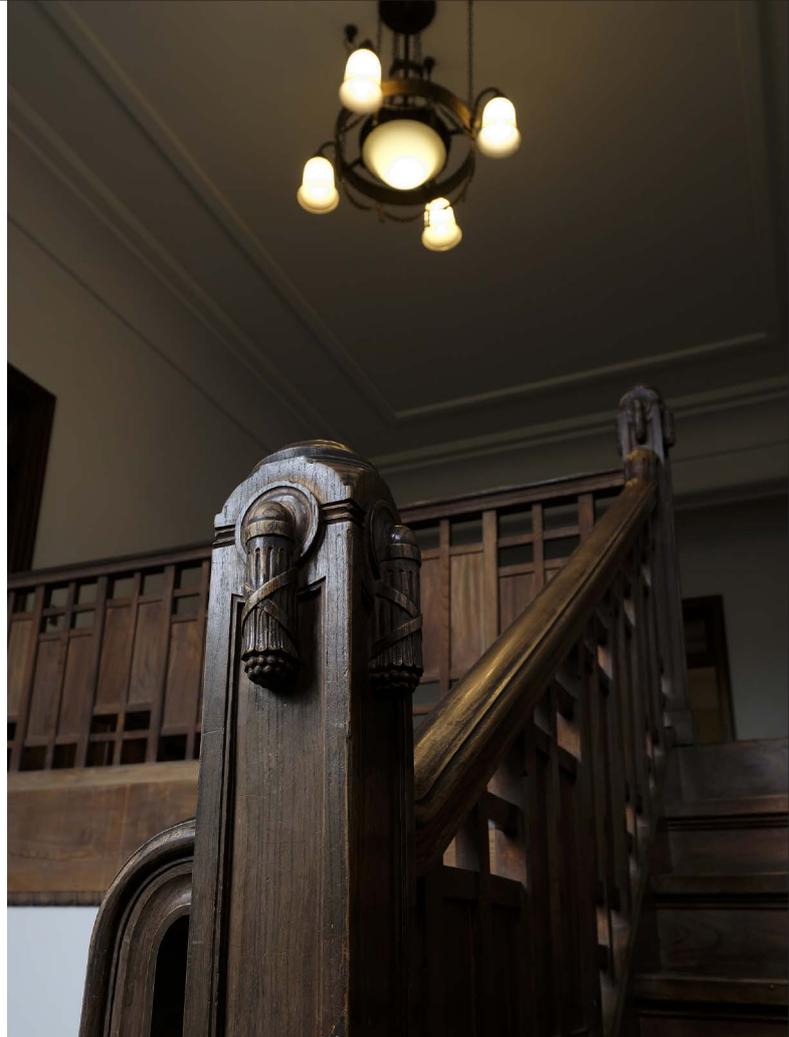
館内を巡っていると、あちらこちらに凝った装飾が施されていることに気がつきます。たとえば、花台や食堂の大型サイドテーブル、応接室のカーテンボックス、ホールの椅子などに見られる「条線文」「葡萄模様」「楕形文」「雷文」などなど。中でもラーメン井でおなじみの「雷文」は、家具以外に部屋の木枠や照明器具の金具、床の木組、建物の軒下にも使われています。雷文は世界各地の工芸品、建築装飾に見られますが、古代中国では土器、骨器、銅器の主文様として多く用いられ、魔除けとしても使われていたとか。館内を散策しながら、そんな「模様探し」をするのも、建物見学の楽しみのひとつですね。



2階大広間。カーテンボックスの布は創建当時のもの。細部も贅が尽くされている



大広間のステンドグラス。東洋画の画題に用いられる「四君子」が描かれている



玄関ホールから2階への階段。柱の彫刻は製糸業を象徴する「糸房」がモチーフ

称された実弟の龍蔵が持病を悪化させて急死。経営はさらに行き詰まり、工場の整理が始まる。一部の工場は、経営権を他社の手に渡さざるを得ない状況に追いこまれていった。

そんな中、病身を抱えながらも常に会社の行く末を案じていた幾太郎が、昭和九（一九三四）年三月に永眠。享年七十九。浮き沈みの激しい製糸業界にあって、日本屈指の会社に発展させ「製糸王」と讃えられた幾太郎の最期であった。

そしてその三年後、大黒柱を失った石川組製糸は、ついに会社を解散。足かけ四十六年間にわたる経営に、静かに幕を下ろしたのである。

あるじ亡き後の西洋館は、昭和十六（一九四一）年に陸軍士官学校校長の宿舍となり、太平洋戦争後は駐留米軍将校のハウスとして接收。返還後は平成十五（二〇〇三）年まで石川家本家が建物を維持したのち、同年九月に入間市に寄贈された。現在は定期的に公開され、数多くのテレビドラマや映画のロケ地ともなっている。

「旧石川組製糸西洋館」は、大正期の建築の面影を残しつつ、人間の地で百年に及ぼうとする風雪をくぐりぬけてきた。波瀾と激動に満ちた石川組製糸の歴史物語を紡ぐ、まさに「語り部」として――。

## INFORMATION

### 旧石川組製糸西洋館

- 所在地：埼玉県入間市河原町13-13
- TEL. 04-2934-7711（入間市博物館）
- 公開：3月～11月の第2・第4土・日曜日を中心に  
一般公開 10:00～16:00 \*入館は終了の15分前まで
- 入館料：一般 200円 団体（20人以上）160円 \*中学生以下無料
- 交通：西武池袋線入間市駅北口から徒歩約7分  
西武バス「入間黒須団地」より徒歩約3分  
\*詳しくは、下記ホームページをご覧ください
- ホームページ：[http://www.city.iruma.saitama.jp/event/event\\_info/seiyoukan\\_koukai.html](http://www.city.iruma.saitama.jp/event/event_info/seiyoukan_koukai.html)



2階の東西の和室。進駐軍による接收時には床の間がクローゼットに変更された

**Q1** はじめに株主還元に対する基本方針と配当方針をお聞かせください

**A** 当社では、株主の皆さまへの「利益還元」を経営の最重要課題としてとらえ、積極的な配当の実現を基本方針に掲げてきました。このたびの第10次中期経営計画においては、年間配当金について「利益水準のいかに関わらず最低でも1株あたり30円を維持する」としています。それとともに、「5年を節目とする記念配当の実施」を目標としております。

**Q2** 具体的な配当金については、いかがでしょうか？

**A** おかげさまで、2015年6月期から2019年6月期（予想）まで、配当金は順調に右肩上がり推移しております。当中間期の配当金につきましては、これまでの業績を勘案しつつ、創業115周年の「記念配当」と合わせ、1株あたり17.5円とさせていただきます。また期末配当金についても、アトムブランド誕生65周年の「記念配当」と合わせて、1株あたり17.5円を予定しております。

# What is ATOM?

株主・投資家の皆さまから、株主還元についてお問い合わせをいただくことが多くなりました。そこで今回は、そうしたご質問について、高橋良一社長にお伺いしました。

アトムリビンテック株式会社  
代表取締役社長 高橋 良一  
1949年生まれ。1969年入社。  
集配センター、研究室、営業管理部、販売部等を経て、1980年、代表取締役副社長。1984年、代表取締役社長。



**Q3** 新たに導入された株主優待制度についてお聞かせください

**A** 本年2月8日に開示いたしました、株主・投資家の皆さまのご支援に感謝するとともに、今後も中長期的に当社の株式を保有していただくことを目的に「株主優待制度」を導入いたしました。優待内容については右図のとおりです。また、幅広い株主さまのご意向にお応えするためQUOカードに換えて、寄付をお選びいただける優待制度といたしております。これからも当社は、全社一丸となって業績と株主利益の向上に努めてまいります。

株主優待内容		継続保有期間	
1 QUOカード または寄付	保有株式数	1年未満	1年以上
		100株(1単元)以上 300株(3単元)未満	— (対象外)
	300株(3単元)以上 500株(5単元)未満	1,500円分	2,000円分
	500株(5単元)以上 1,000株(10単元)未満	2,500円分	3,500円分
	1,000株(10単元)以上	5,000円分	7,500円分

**2 当社関連商品の特別割引**  
当社が指定する商品を定価の**20%割引**にてご提供






など 20品目

\*詳細は弊社ホームページ（下記アドレス）をご参照ください  
[www.atomlt.com/ir/stockholders/shareholders](http://www.atomlt.com/ir/stockholders/shareholders)

**アトムリビンテック株式会社 会社概要**

- 創業  
1903年（明治36年）
- 資本金  
3億74万円（2019年6月期末）
- 年商  
105億8,900万円（2019年6月期）
- 設立  
1954年（昭和29年）
- 従業員数  
124名（2019年6月30日現在）
- 事業内容  
内装金物（住まいの金物）全般の企画・開発・販売
- 代表者  
代表取締役社長 高橋 良一
- 本社所在地  
東京都台東区入谷 1-27-4



当社の業績概況や事業戦略にスムーズにアクセス！アトムリビンテックの「株主・投資家情報」サイトをぜひご利用ください。

[www.atomlt.com/ir](http://www.atomlt.com/ir)



## 春・秋の展示会とは？

アトムリビンテックでは、2007年まで年1回ずつ23年間にわたり、当社製品をご紹介しながらお客さまとの交流を深めることを目的に「住まいづくりとATOMとの出逢い展」(通称「個展」)を開催してきました。ただ、年1回ということ、ややもすればイベント化し、開発商品についても試作品、提案品の評価をいただくという側面が強くなり、より良い製品を提供するための活動が薄れてしまうことが大きな悩みとなっていました。

そうした反省に立って、市場環境や市場ニーズの急激な変化に対応するとともに、ターゲットを明確にし、かつきめ細やかに情報発信を行うべく、半年に一度ずつ「春の

新作発表会」「秋の内覧会」という連続性のあるスタイルでの販売促進活動を2008年の秋からスタートさせました。

また2017年には「アトムCSタワー」の2階に住空間を再現した「LIVIN' ZONE」を新たにオープン。実際の住まいに近いかたちでの空間提案を行っています。



▲ 東京会場



▼ 大阪会場

## INFORMATION

### アトムリビンテック「2019 秋の内覧会」のご案内

#### 大阪会場

10/  
10(木) 11(金) 12(土)

#### アトム住まいの金物ギャラリー大阪

tel.06(6821)7281 大阪府吹田市広芝町18-5  
10:00～18:00 \*最終日は17:00まで



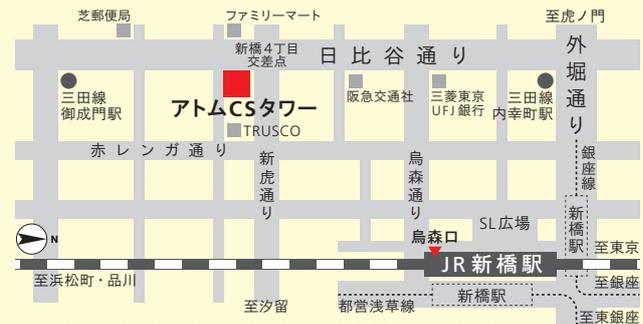
御堂筋線・南北線「江坂駅」南改札より徒歩8分

#### 東京会場

10/  
17(木) 18(金) 19(土)

#### アトムCSタワー

tel.03(3437)3440 東京都港区新橋4-31-5  
10:00～18:00 \*最終日は17:00まで



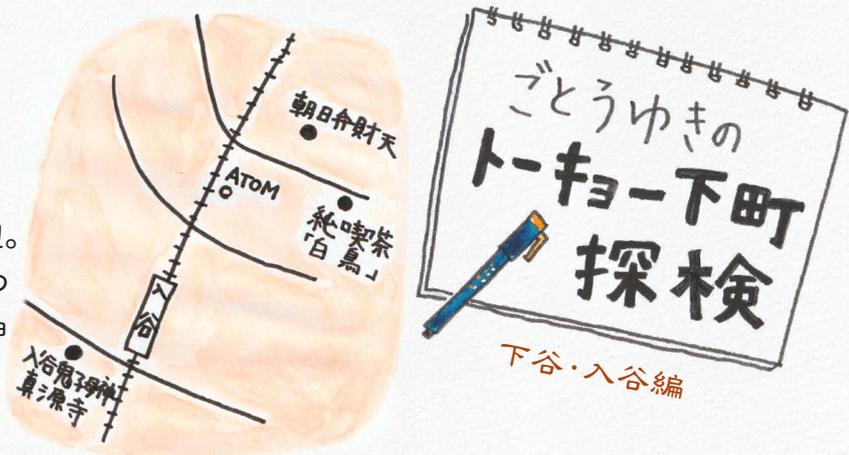
JR・東京メトロ銀座線・都営浅草線「新橋駅」より徒歩8分  
都営三田線「御成門駅」・「内幸町駅」より徒歩8分

ご来場ご希望の方は、アトムリビンテックホームページより招待状をプリントアウトしてお持ちください。

[www.atomlt.com](http://www.atomlt.com)

関西出身の旅スケッチ画家が  
気ままに歩いてみつけた東京下町の日常を  
その場でスケッチしていきます。

今回歩いたのは、台東区下谷と入谷近辺。  
毎年七夕の時期に開かれる入谷朝顔まつり  
は夏の風物詩。会場の入谷鬼子母神  
(真源寺)は、大勢の人でにぎわいます。



公園かと思ったらお堂があっ  
た。朝日弁財天らしい。この遊  
具との融合具合がなんか好きだ。  
朝の8時、だんだん暑くなって  
きて手ぬぐいまいてスケッチし  
てたら、向こうからおばさんが  
冷たい麦茶持ってまわってきた。  
そのあと、近くの純喫茶「白鳥」  
へ。扉の中は完全な昭和の匂い。  
店主が女性なら、お客もみな女  
性だった。それもなんたらラテ  
の入った紙コップを片手にスマ  
ホを見てるわけじゃない。カチ  
ンカチンといわせてタバコに火  
をつける様子。女流作家が主人  
公のドラマのワンシーンみたい  
だったな。



通りも鬼子  
母神のお寺  
(真源寺)の  
中も朝顔の  
葉っぱでいっ  
ぱい。私の住  
むアパートも  
昨日から大家  
さんが朝顔を  
並べて。朝  
顔と打ち水、  
ラジオ体操、  
夏休みの朝の  
光景。子ども  
のころが思い  
出される。



旅スケッチ画家 ごとうゆき  
1967年生まれ  
兵庫県明石市出身、練馬区在住  
安宿に泊まって日本のあちこちを  
歩きまわり、日常生活の風景を  
描くことが大好き

読者の声

アトムニュース180号で取り上げられていた荻寿綱氏の建築を実際に見に行ってみました。本当におもしろい建築で、もっと日本の隠れた名建築を見てみたいくなりました。これからも興味をそえられる建物の特集を続けてください!! (東京都 Nhou様)

今回の「古今東西たてものがたり」は、大変参考になりました。とくに組子細工のクローズアップはよかったです。

(北海道 ドン・ノン様)

私も仕事で小さな鉄を愛用しております。同じ大きさやかたちの鉄でも自分に合うものと合わないものってあるんですね。

(東京都 O・H様 女性)

最近おもしろいと思っているのはベジタブルアトリエ。はじめは建築やそれに関わる道具の雑誌なのになぜ野菜?と思いましたが、物作りという点では野菜も建築も道具も同じなのかもしれませんね。みずみずしく美しい写真とともに、一服の清涼剤のようなさわやかな記事をいつも楽しみにしています。

(沖縄県 Y・N様 女性)

どんどんと紙での広報誌がなくなってしまい、電子上での閲覧も便利ですが、やはり、紙ベースで読むことが好きです。とくに、アトムニュースの写真が素敵で、何度もページをめくっています。ページをめくるのも好きです。自身は不器用で何も満足につくることができないのですが、モノづくりの現場が好きです。今回は、「ねじ山が潰れた場合、幅が広めの輪ゴムをねじ山へのせて…」に目が釘付けとなりました。さっそく、試してみます。

(東京都 cocohiroco様)

古き良き建物や物などは、もちろん引き続き特集していただきたいですが、新しい建物や海外の建物の紹介なども時折あると新鮮な目で見ることができます。

(千葉県 T・A様 女性)

編集後記

日本最大の音楽フェス・フジロックに初参戦! ひとりで、前夜祭から4日間のフルコース。会場は端から端まで約4kmもあるので、途中、木陰で昼寝をしたり、お酒を飲みながら散策したり、頑張りすぎない大人のピクニックを楽しんでいました。しかし、2日目には近年まれにみる大雨に襲われ、翌日晴れたと思ったら、今度は厳しすぎる日差し。たまに空調の効いた(そして風雨を凌げる)東京のオフィスが懐かしくなったりしたのでした…。山の天気には翻弄されることで、普段当たり前のようになっている文明の利器のありがたみを再確認することができました。と、言いつつ、はやくも来年の計画を立て始めています(笑)。(島仲)

INFORMATION

「日経IR・個人投資フェア2019」に出展しました

8月23日(金)・24日(土)の2日間、東京ビッグサイトで開催された日本経済新聞社主催の「日経IR・個人投資家フェア2019」に出展いたしました。会期中は、当社出展ブースならびに会場別会社説明会にたくさんの方にお越しいただき、誠にありがとうございました。



商品本部商品管理課 岩淵 豊大

アトムC/Dセンターで、荷受けや梱包などの商品管理に携わる

私のオフタイムの過ごし方はマラソンです。最近では東京マラソンや東京オリンピックなどの影響でマラソンブームですが、私がマラソンを始めたきっかけは、平成21年3月29日、地元で開かれた「第一回草加ふささらハーフマラソン大会」。ゲストランナーにはオリンピック金メダリストの高橋尚子さんが来るとのことです。友人と参加しました。記録は練習不足もあって、2時間57分と規定タイムギリギリでしたが、約3500人のランナーが町の中を走る迫力と沿道での市民の応援が心に残っています。

「マラソン大会」は、社員の方やパートナーなど会社の仲間たちがレース前から応援に駆けつけてくれます。レースが終わるとみんなで食事に行きビールを飲みながらワイワイと反省会をしています。目標にしている東京マラソンは毎年応募していますが毎回、落選しています。今年は、一般エントリー2万7370人に対し33万271人と約12倍と狭き門でしたが、来年こそ当たるかと思いい今年もエントリーしました。

日ごろの練習では、国指定名勝のおくのほそ道の風景地・草加松原の中や自宅から越谷レイクタウンまで走っています。休日は一日8〜16キロ、平日は5〜8キロくらいのペースで、一カ月100キロを目標に好きな音楽を聴きながら走っています。これからもリフレッシュしつつマラソンを続けていきたいと思っています。



お揃いのマラソン部Tシャツで走ります!

個人情報の取り扱いについて

読者プレゼントにご応募いただいた皆さまの個人情報は、プレゼント発送のほか、商品情報や弊社個展の招待状等の発送に利用させていただく場合がございます。これらの発送停止をご希望される場合には、速やかに対応いたします。詳しくは弊社HPのプライバシーポリシーをご覧ください。

# ここにも、あそこにも、ATOMの金物。

アトムブランドは信頼と高品質の証。これからも快適な暮らしを支えていきます。



折戸・引戸システム金具  
ハンガーパイプ・フック  
キャスター・デスク用金物 など

bedroom



扉のマグネットキャッチ  
ツマミ・ハンドル・耐震ラッチ  
スライド丁番・スライドレール など

kitchen

傘立て  
小物入れ  
玄関用収納椅子 など

entrance



livingroom

移動間仕切りシステム  
引戸ソフトクローズ  
ドア錠・引戸錠・ペット用ドア など



住まいの飾り職人

**ATOM**  
LIVINTECH **アトムリビントック株式会社**

■本社 / 〒110-8680 東京都台東区入谷1-27-4 TEL.03-3876-0600 (代表)

特販事業部 TEL.03-3876-0603 FAX.03-3876-8833

卸売事業部 TEL.03-3876-0602 FAX.03-3876-4435

■アトムCSタワー / 〒105-0004 東京都港区新橋4-31-5

アーバンスタイル事業部 TEL.03-3437-3673 FAX.03-3437-3565

亜吐夢金物館 TEL.03-3437-3440 FAX.03-3437-3565

■アトム住まいの金物ギャラリー大阪事業所 / 〒564-0052 大阪府吹田市広芝町18-5  
TEL.06-6821-7281 FAX.06-6821-7282

■札幌営業所 / 〒060-0907 北海道札幌市東区北七条東三丁目28-32 井門札幌東ビル1F  
TEL.011-748-3113 FAX.011-753-3015

■前橋営業所 / 〒371-0805 群馬県前橋市南町3-72-7  
TEL.027-223-2651 FAX.027-223-2661

■広島営業所 / 〒733-0031 広島県広島市西区観音町16-9 みさおビル1F  
TEL.082-291-4235 FAX.082-291-4880



www.atomlt.com